

# 土地と暮らす農園コミュニティ

1140065 河渕絢子

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

## 1. はじめに

現在特殊な地形によって、利用する事が困難な敷地が数多く存在し、それらはこれまでに多く見過ごされてきた。その一方で人々が平地を好み移り住むことで家々が密集した住宅街をよく見受けられるようになった。

しかしその生活は、密集しているにも関わらず箱の中で閉じ、孤立している。それは少し面白みがなく近隣とのコミュニケーションが取りづらい環境にあると感じた。現在その箱の中で生活していく上で、騒音・ゴミ・悪臭など近隣トラブルに関する問題が発生しているのも事実だ。あえて住みにくい特殊地形に住まいを置く事で大地の存在を意識し、大事に思う心が生まれるのではないか。それと同時に、家で孤立しないような仕掛けを加えることで大地や隣人を大切に思う気持ちも芽生えるのではないかと感じた。そこで改めて地域コミュニティの重要性を顧み、住民同士の繋がりを形成するための新しい取り組みが必要であると考えた。

## 2. 設計の目的

I これまでに見過ごされてきた特殊地形ならではのストックを活かした、住まい方や場所のイメージを新たに提案する。

II 近隣住民とのコミュニケーションが自然に生まれる仕掛けを住まいに加える。

III 特殊地形の魅力と住まい方の仕掛けが相乗効果を生むような計画。

以上の項目を考慮した設計を提案する。

## 3. 対象敷地

敷地として高知県土佐山田百石町を選定する。敷地全体に“段丘”が広がる。この敷地が現在利用されていない原因のひとつとして段丘となっていることが挙げられる。段丘の存在によって、住宅街と田畑のアクセスがしづらく、近隣住民は段丘を避けるように生活する。



写1 全体に広がる段丘

写2 敷地形成

また地図上からも見てとれるように、“水路”を境に町の印象が、大きく変化していることが分かる。この水路には、生物や植物も多く生息し、子どもたちの格好の遊び場となっている。段丘は人々に避けられがちであるが実は以下のような魅力がある。

- ・高低差による様々な眺望
- ・南側の日照りを最大限に受け取る段々地形
- ・車の進入を阻む人中心なスローな空間
- ・農業用水路としての可能性

計画ではこの魅力を十分に活かしたい。

## 4. 農園コミュニティの設計方針

### 4-1. 方針

この敷地は段丘の存在によって、住宅街との関係が断絶されている。その為、主導路となる国道から連なる住宅地、そして徐々に自然豊かな別世界の森へと変化する。

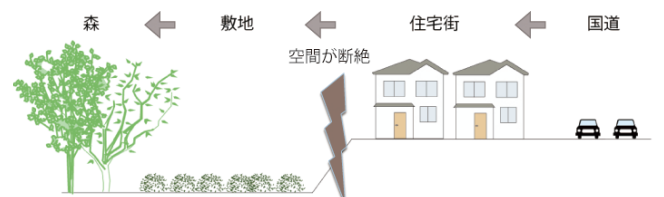


図1 空間の断絶

段丘が生んだ亀裂に、田畑と住宅街の規模を徐々に広げていき、互いを融合させ一体化する。健全な水環境・多様な生物・温暖な気候を活かし“農園”をコミュニティの場として、集合住宅を設計する。

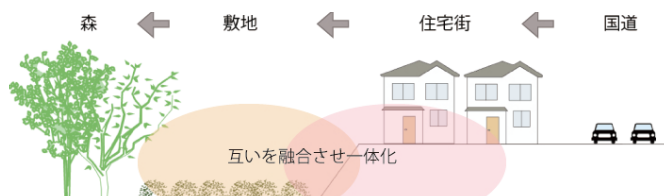


図2 二つの要素の一体化

#### 4-2.農園と集合住宅の地形を活かした融合

集合住宅で人々が集まって暮らす事で自分一人の生活では得る事の出来ない、居心地の良い環境を他人と共有すると同時に、農作物を自らの手で育てることで土地と住む事を噛み締めて生きることができる。2つの要素の結合によって、人々が現代の暮らしの中では感じる事が難しい、他人との共存と大地の恵みの有り難さを実感する。

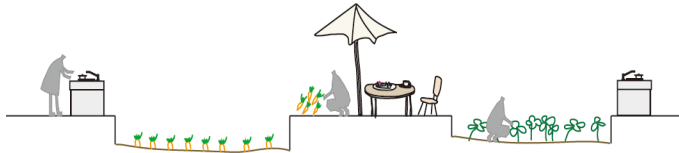


図3 農園イメージ

#### 4-3.農園の計画

人々は献立や季節にあった野菜や果物を収穫し、生活送る。その場で食べたいもの調理でき、食事が終われば残った生ゴミを肥料として再利用する。農園の周りで起こる、多様なアクティビティーが新たなコミュニティを誘発する。

#### 4-4.住宅の計画

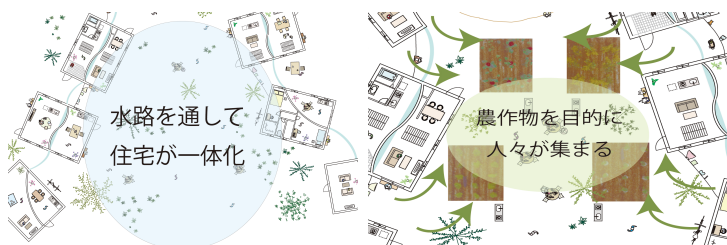
家型の箱の中に壁を設け、屋外空間を挟み新しい領域を形づくることで新たな空間が生まれ、人々を自然に引きつける仕掛けとなる。ここでしかできない暮らしの面白さを追求し、これまでの住宅と違った概念を得る。



図4 壁を用いた新しい仕掛け

#### 4-5.形の設定

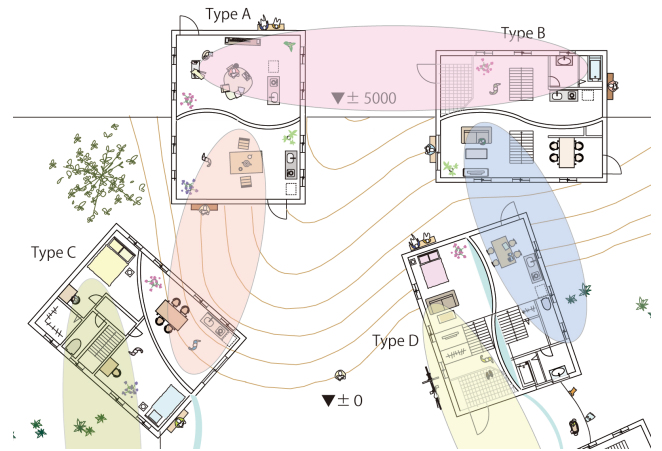
この敷地の特徴である水路を建物内に引き入れ、流れに沿って家型の中の壁を形成。自然で自由な形を表現し、農園だけでなく水路を通してコミュニティが一体化する様を表した。



家型の壁は、水路の流れによって形成される。

#### 平面計画

図5 配置図兼平面図



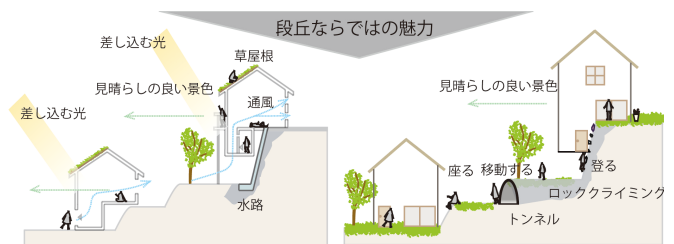
#### 断面計画



図6 断面図 S=1:250

#### 4-6.段丘の利用

段丘に住まいを置く事で、高低差による眺望や住民同士の交流の場を設け、特殊地形の魅力を引き立たせた。



#### 5.まとめ

住宅にひとつの壁を設け、屋外を挟んだ暮らしを提案することで大地と結びついた新しい暮らしを創れた。斜面地の農園と一体化したこれらの地域は、更なる選択肢を与えると共に食育の場、また広場として地域に溶け込み、郊外の風景を再構築していこう。

